

令和 3 年 6 月 15 日現在

機関番号：31303

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K13381

研究課題名(和文)近代日本の地域社会における雑誌メディアの普及と受容に関する研究

研究課題名(英文) Research on the spread and acceptance of magazine media in modern Japanese communities

研究代表者

河内 聡子(Kawachi, Satoko)

東北工業大学・総合教育センター・講師

研究者番号：20771778

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では明治以降に出版された雑誌類を中心とした活字資料の、地方における流通と普及、および受容のあり方について調査・分析することで、地域社会における大衆的な活字メディアの展開の様相を明らかにし、近代日本の活字文化・読書文化の一側面を記述した。研究成果として、地方における雑誌類を中心とした蔵書調査を行い、その目録およびデータベースを構築した。また蔵書調査の過程で得られた目録を参照し、雑誌類の流通機構や誌面内容を分析し、地域社会における普及・受容について具体的に明らかにした。また、蔵書調査によって整理された資料をアーカイブとして管理・保存して活用できるよう基盤となる体制を準備した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果により、日本の地域社会における雑誌の普及と受容の様相の一端が明らかとなった。また、蔵書調査によって、新たな資料が発見され、その資料的価値や意義を定位することができた。そして、蔵書調査によって整理された資料の目録を作成し、一部をデータベース化して公開することで、広く共有可能な知的情報として発信することができた。更に、資料群を管理し地域の文化財として保存していくための基盤を整備するために努めた。

研究成果の概要(英文)：In this study, we will investigate and analyze the distribution, dissemination, and acceptance of printed materials, mainly magazines published after the Meiji era, in rural areas, and examine the development of popular printed media in the local community. Clarified and described one aspect of modern Japanese print and reading culture. As a result of the research, we conducted a collection survey centered on magazines in rural areas and constructed a list and database of them. In addition, referring to the catalog obtained in the process of the collection survey, the distribution mechanism of magazines and the contents of the magazine were analyzed, and the dissemination and acceptance in the local community was clarified concretely. In addition, we have prepared a basic system so that the materials organized by the collection survey can be managed, stored, and utilized as an archive.

研究分野：日本近代文学

キーワード：雑誌 地域社会 寺院 蔵書調査 近代仏教

1. 研究開始当初の背景

雑誌を対象とした研究は諸学問領域において数多くの蓄積があり、前田愛『近代読者の成立』(有精堂、1973)、永嶺重敏『雑誌と読者の近代』(日本エディタースクール出版部、1997)や、佐藤卓己『『キング』の時代 国民大衆雑誌の公共性』(岩波書店、2002)などが研究成果として挙げられる。しかし、これまでの雑誌を始めとした活字メディアをめぐる研究は、主に都市部を問題として蓄積されてきており、他方で地域社会を対象としたものは十分にされていないのが現状である。この研究状況を踏まえて、近代日本の雑誌メディアの普及や受容といった文化史・社会史を記述していくために、いまだ余白となっている地域社会における展開を明らかにしていく必要性を自覚し、本研究を着想した。

また、研究代表者は、これまでの研究においても地域社会における雑誌の普及・受容という問題に取り組んでおり、近代日本の農村社会において最も普及した雑誌である『家の光』を中心的な分析対象として、昭和初期の農村社会において情報や言説がどのように流通・伝達し、さらに受容されていたのかを具体的に明らかにし、活字文化が地域社会を含めて大衆化していく歴史的な段階を記述してきた。しかし、これまでの研究では『家の光』に対象を特化し、また主に「農村地域」という領域性の中で論じるに留まっている。そのため、地域社会における雑誌の普及・受容のありようを明らかにするには、地方における活字メディア環境の多様な可能性の中から、より広範な視野で捉えていくことが不可欠であると思いついた。

更に、研究代表者は福島県いわき市や長野県諏訪市などで実施される地方寺院の蔵書調査(代表者：渡邊匡一信州大学教授)に参加しており、地域における資料の目録化とデータベース化、およびそれらを基にした成果報告に携わってきた。蔵書調査は基本的に悉皆調査であるが、近代以降の資料は傍系的に扱われる傾向にあり、場合によっては目録化からも外されている現状である。しかしこの調査において、地域社会における雑誌そのものの蓄積の様相や、雑誌受容のあり方を具体的に示す資料を確認することが可能であり、これら資料の活用が、近代以降の地方における雑誌の普及・受容を実証的に明らかにする上で有効であると確信し、またその管理・保存と目録化・データベース化の必要を認識するに至った。また、研究代表者は長野県松本市に所在する高美書店の明治期以降の資料調査(代表者：和田敦彦早稲田大学教授)にも参加し、その成果も提出している(『国定教科書はいかに売られたか 近代出版流通の形成』ひつじ書房、2011年)。この資料群には、近代以降の地方における雑誌の流通機構を明らかにしうる資料が蓄積されており、それを基にした新たな研究の構築を企図した。

2. 研究の目的

目的1)【蔵書調査の実施と資料の目録化】

近代以降の地域社会における雑誌の普及・受容の様態を明らかにするための蔵書調査を実施し、目録化・データベース化を行うことで地方に蓄積された雑誌資料群の体系的把握を進める。それにより、地域社会における雑誌の普及・受容のあり方を数量的に分析し、どのような雑誌が近代以降の地方に流通し享受されていたのかを事例的に明らかにする。それと同時に、作成した目録およびデータベースを公開し、一般に向けて情報共有の機会を図る。

目的2)【資料のアーカイブ化】

上記の蔵書調査の過程で整理された雑誌資料を管理・保存し、将来的に存続可能なアーカイブとしての環境を整備する。明治期以降に刊行された雑誌類は、経年劣化のみならず、紙の性質や保管の状態によって傷みが少なくないものを多く、それらの管理・保存は喫緊の課題と言って良い。現物保全のあり方だけに留まらず、希少性や劣化の程度によってはデジタル化を含めて方法を検討する。なお、管理・保存およびアーカイブの具体的方向性については、所蔵者および研究協力者と協議しながら考案し、その実現を目指す。

目的3)【分析・考察と発信】

蔵書調査の過程で得られた目録を参照し、雑誌の流通機構や誌面内容、および読書記録などを分析し、地域社会における普及・受容について考察する。具体的には、蔵書調査によって目録化された雑誌の中から対象を絞り、その誌面内容を分析することにより、いかなる情報が地方に発信されたのかという可能性について、都市との相対化を視野に入れつつ検討する。また、申請者がすでに参加している各種の蔵書調査では、雑誌そのものの蓄積のみならず、雑誌の流通機構を示す資料や、読者としての享受のありようが知れる記録が確認されているため、それらを基にして地域社会における雑誌の普及・受容の様相を具体的に記述する。

3. 研究の方法

関係資料の調査・整理・収集

地域社会における雑誌の普及・受容を明らかにするため、該当施設の蔵書を調査・整理し、その内容の一部を目録化・データベース化していく。また、併せて研究の基盤となる資料を収集する。

文献・資料の保全整備

蔵書資料の目録化・データベース化と併せて、資料群の管理・保存（アーカイブ化）に向けた環境を整備する。

文献・資料の分析

調査・整理・収集した関係資料や、目録・データベースを分析し、地域社会における雑誌の普及と受容の様相を明らかにする。

調査及び研究結果の公開と発信

調査のデータや分析で得られた結果を、研究成果として口頭発表・論文・インターネットなどの形で公開・発信していく。

4. 研究成果

「2. 研究の目的」に挙げた3つの項目に即して、研究成果を以下に記す。

1【蔵書調査の実施と資料の目録化】

本研究を開始した2017年度から2019年度にかけて、3年にわたって5つの調査先（下表参照）で関連する資料の調査を実施し、関係する資料を整理・閲覧した（それぞれの調査先での資料による具体的な成果については【分析・考察と発信】に詳述する）。その内、如来寺（福島県いわき市）と仏法寺（長野県諏訪市）では目録を作成し、その一部はインターネット上に公開している（「リテラシー史研究会 HP データベース一覧」<http://www.f.waseda.jp/a-wada/literacy/database.html>）。

調査先	回数（日数）	調査資料
福島県いわき市（如来寺）	3回（9日）	寺院における雑誌利用関連
長野県諏訪市（仏法寺）	2回（3日）	寺院における雑誌利用関連
長野県松本市（高美書店）	1回（2日）	雑誌等の流通関連
千葉県八千代市（八千代市立図書館）	3回（3日）	雑誌付録「家計簿」
東京都千代田区（国立国会図書館）	9回（12日）	基礎文献

なお、2019年度は2020年1月以降に予定していた調査が新型コロナウイルスの影響によって中止となったため、目録の完成に至ることができなかった。追加資料の入力とともに、既に入力済みのデータの点検を含めた最終的な確認を経て、データベースとして公開できるよう、今後も継続的に取り組んでいく。

2【資料のアーカイブ化】

2017年8月に如来寺（福島県いわき市）において『雑誌抜粋』（全5冊・298丁）を写真とスキャナで撮影し、デジタル画像（全305枚）とした。『雑誌抜粋』は明治時代後期に成立した写本で、当時の地域社会における新聞・雑誌の受容を考える上で貴重な資料であるが、一部に劣化が見られるためデジタル化して保存することが妥当であると判断した。本資料の公開は今のところ未定であるが、所蔵者との協議を重ねて前向きに検討していきたい。

3【分析・考察と発信】

資料調査に基づいて分析・考察を行い、その成果を論文や学会・研究会での口頭発表として発信した。その成果の概要は、主に3点となる。

まず一点目は、明治期における仏教寺院での雑誌メディアの活用について明らかにしたことである。具体的には、福島県いわき市如来寺に所蔵される明治期の書写本『雑誌抜粋』を取り上げ、まずは成立過程の検討を通じて、新聞や雑誌をもとにして近代的な説草集をどのように編纂したかを分析し、その上で内容を検討することで明治時代という仏教の大変革の時期にあって、僧侶が最新のメディアからいかなる情報をどのように選択して摂取し、また発信しようとしていたのかについて、事例的に明らかにしている（論文「明治期地方寺院における説草集の編纂をめぐって」『仏教文学』第42号、2017年 / 「如来寺蔵『雑誌抜粋』に見る近代メディアの受容と利用 明治期における仏教知の再編をめぐって」『リテラシー史研究』13号、2020年）。

二点目は、明治期の地域社会における雑誌を含めた活字メディアの流通について明らかにしたことである。長野県の書肆・高美書店が所蔵する資料の中で、特に県内の取引に関わるものを整理して解説し、地域社会の書籍の流通を考える上での歴史的な文献として有効であると提起した（「長野県内書籍取引関連文書」『明治期書店文書 信州・高美書店の近代（出版流通メディア資料集成 五）』pp.239-344,353-355、金沢文圃閣、2017年）。

三点目は、雑誌の付録である「家計簿」の地域社会における利用実態について明らかにしたことである。日本の地域社会で最も普及した雑誌である『家の光』が付録とした「家計簿」や、地

域社会も含め全国的に広く普及したとされる『主婦之友』の付録「家計簿」に関して、歴史的な背景とジェンダー性の観点を踏まえて、近現代における受容のあり方について分析した(口頭発表「高度経済成長期における農村女性の理想像をめぐって 「家の光家計簿」の成立と展開にみる 」近代日本の日記文化と自己表象第12回研究会、2017年7月15日 / 「近代日本の農村社会における「家計簿」の普及と展開 史料としての可能性を視野に 」人間文化研究所共同プロジェクト「日本人と日記」研究会、2019年2月16日)。

また、2020年1月以降は感染症の影響により予定していた調査が実施できず、更に延長後の2020年度も状況が継続されたことから、やむを得ず最終年度は蓄積された資料や情報に基づいて派生的な対象の分析も行い、海外の事例や現代の雑誌メディアの展開についても研究した(論文「金永鍵の収集資料の検討」『リテラシー史研究』14号、2021年など)。

本研究は、従来まで十分に注目されてこなかった地域社会における雑誌の流通や普及、受容や活用について、資料調査に基づく新たな文献によって具体的に明らかになり、近代日本の活字文化史あるいは地域文化史の余白を埋める成果といえる。また、目録化した資料の一部をネットワーク上に公開したことで、国内外を含め一般に共有可能な研究資源となった。更に、方法として蔵書調査を行うことにより、地域の歴史的文化的文化財が発見され、知的財産として見出された。それを学術的に評価することで、将来にわたって地域の資料が保存され、継承されることが期待される。

課題としては、資料のアーカイブ化に向けた整備が十分に行えなかったため、本研究の成果を下敷きとして、今後の実現を目指していく。また、展望としては、本研究の成果を基盤として、事例的に地域を限定してより詳細に分析し、近代日本の地域社会における雑誌の普及と受容に関する一つのモデルケースとして提示することを試みたいと考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 河内 聡子	4. 巻 13
2. 論文標題 如来寺蔵『雑誌抜粋』に見る近代メディアの受容と利用 明治期における仏教知の再編をめぐって	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 リテラシー史研究	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 河内聡子	4. 巻 42
2. 論文標題 明治期地方寺院における説草集の編纂をめぐって	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 仏教文学	6. 最初と最後の頁 25-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 河内聡子	4. 巻 32
2. 論文標題 理想郷としての「乳と蜜の流るゝ郷」 産業組合の論理を越えて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 雲の柱	6. 最初と最後の頁 60-92
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 河内聡子	4. 巻 14
2. 論文標題 金永鍵の収集資料の検討	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 リテラシー史研究	6. 最初と最後の頁 103-114
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 河内 聡子
2. 発表標題 越境する「ことば」たち ベトナム社会科学研究所蔵日本語資料の調査を通して考える
3. 学会等名 日本文芸研究会 第71回研究発表大会 招待発表「時代を超えることば」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 河内 聡子
2. 発表標題 雑誌『家の光』に表れる賀川豊彦の宗教言説 ―産業組合とキリスト教思想との親和性を基底として考える―
3. 学会等名 二〇一九年度キリスト教研究所一日研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 河内 聡子
2. 発表標題 女性と家計簿の近代 モノとしての家計簿の役割にみる
3. 学会等名 学際シンポジウム「近代日本を生きた『人々』の日記に向き合い、未来へ継承する」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 河内 聡子
2. 発表標題 釣魚礼讃 「釣り」を書くことの文学的意識と、メディア的需要をめぐって
3. 学会等名 「近代日本の日記文化と自己表象」第23回研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 河内聡子
2. 発表標題 地域社会における書くこと・読むこと（リテラシー）の歴史を考える
3. 学会等名 「日記の館」開館記念式（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 河内聡子
2. 発表標題 家計簿から見る高度経済成長 「山田義一・ヨメ子家計簿」の検討を中心に
3. 学会等名 シンポジウム「日記から読み解く高度成長：人びとの意識と行動」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 河内聡子
2. 発表標題 中央 の論理を越えて 地方 を眼差すことの可能性
3. 学会等名 平成30年度工業系支援機関ネットワーク研修会in東北
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 河内聡子
2. 発表標題 近代日本の農村社会における「家計簿」の普及と展開 史料としての可能性を視野に
3. 学会等名 人間文化研究所共同プロジェクト「日本人と日記」研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 河内聡子
2. 発表標題 高度経済成長期における農村女性の理想像をめぐって 「家の光家計簿」の成立と展開にみる
3. 学会等名 近代日本の日記文化と自己表象
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Satoko KAWACHI
2. 発表標題 An investigation of materials compiled by Kim Yung-kun in the ancient Japanese book collection at the Social Sciences Library, Vietnam Academy of Social Science
3. 学会等名 ISSI, Vietnam Academy of Social Sciences, ANCIENT JAPANESE BOOK COLLECTION OF THE SOCIAL SCIENCES LIBRARY OF VIETNAM ACADEMY OF SOCIAL SCIENCES ISSUES AND POTENTIAL (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 河内聡子
2. 発表標題 「釣り」と文学 榛葉英治『釣魚礼賛』を起点として
3. 学会等名 日本近代文学会2020年度11月例会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 和田敦彦・河内聡子他	4. 発行年 2018年
2. 出版社 金沢文圃閣	5. 総ページ数 310
3. 書名 明治期書店文書：信州・高美書店の近代 第5巻	

1. 著者名 高橋秀太郎・森岡卓司編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東北大学出版会	5. 総ページ数 265
3. 書名 一九四〇年代の 東北 表象: 文学・文化運動・地方雑誌	

〔産業財産権〕

〔その他〕

『雑誌抜粋』目録データベース http://www.f.waseda.jp/a-wada/literacy/database.html

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------